

2017年度 飯田高校同窓会速報

今週の6月11日(日)に名古屋のキャッスルホテルにおいて飯田高校同窓会定期総会が開かれ、全国から集まった249名が参加しました。定期総会が飯田以外で開催されるのは4年前の東京開催(アルカディア市ヶ谷)以来、2度目になります。この名古屋開催の学年幹事は高21回生で、飯田、名古屋、東京他から73名が参加しました。

総会は大田中副会長による開会の辞、校歌斉唱、物故者への黙祷の後、宮島八束同窓会長、牧島晃校長のご挨拶があり、11時から議事が進められました。議事では、平成28年度事業報告、平成29年度事業計画・予算案が宮島会長及び井出事務局長により説明され、承認されました。引き続き役員改選が行われ、宮島会長の留任と新任役員が選出されました。また、矢澤副会長ほか退任役員が発表されその労をねぎらいました。

11時30分からの講演では、村田宣政(のぶまさ)さん(高21回)が次のテーマで講演しました。

演題:「今を変えない限り、未来は変わらない～事業をとおして故郷を考える～」

村田さんは「にっぱん株式会社」の取締役会長を務め、「魚がし日本一」などの寿司店等46店舗を経営しておられますが、現在、若手の飲食店経営者の育成指導にも注力しています。100年企業を目指す一方で、事業をとおして、県外から長野県の繁栄と未来を考えて提案していきたいと語っています。実業界で活躍する村田さんの講演は新鮮であり、多くの聴衆を惹きつけました。

講演後のアトラクションでは、同じ会場で、飯田から招かれた本町三丁目大名行列保存会による大名行列が行われました。ホテルのスペースや天井の高さの関係で、やむなく少人数による大名行列となりましたが、お練り祭りしか見られない、道中所作や掛け声など格式のある伝統の演技を見ることができました。

懇親会では、冒頭に、「伊那谷地名研究会」が社会貢献度大として「高松賞」を宮島会長から授与されました。そして、牧島校長や同窓会幹部による鏡割りが行われ、乾杯後はそれぞれ楽しく歓談しました。その後、中島光夫さんの指揮による応援歌の斉唱、長沼寛さんのトランペット演奏に合わせた21回生による「若者たち」の合唱があり、小林伸学年代表等による高22回生への幹事引継ぎ式が行われました。最後に、佐々木副会長が閉会の辞を述べ、定期総会は大盛況のうちに終了しました。

翌12日(月)は、信南交通の観光バスツアーに29名が参加し、三菱重工名古屋航空宇宙システム製作所史料室、アサヒビール名古屋工場、リニア鉄道館を見学しました。三菱重工の史料室は耐震補強するため先月閉館する予定でしたが、井出事務局長のご尽力により、12日まで1ヶ月閉館を伸ばしてもらいました。そのおかげで、天野室長に日本の航空機開発の苦労話を伺いながら、復旧された「ゼロ戦」等を見学することができ、参加者はラッキーでした。アサヒビールで

は工場見学の後、スーパードライの試飲(1人3杯まで)ができ、参加者は大いに喜びました。リニア館では超電導による500km/hの浮上走行をシミュレーション映像と振動で体験することができました。

定期総会は無事成功裏に終了し、観光ツアーも楽しいものになりました。私は定期総会を運営した高21回生の一人として共に成功を喜ぶとともに、併せて定期総会と見学会を企画し、関係先と種々折衝して戴いた井出雅陽事務局長(高17回)に感謝したいと思います。

(大原直(高21回)記)